

大子町における小規模事業者の
景況調査報告

調査期間 令和1年4月～6月度

平成29年1月～令和元年6月

大子町商工会

目的：

大子町の小規模企業者の景況感を継続して調査することで、大子町における小規模企業者全体で景況感を共有することを目的とする。

方法：

製造業・建設業、小売・卸売業、サービス業（飲食店等を含む）からサンプルの小規模企業者を約 30 社選び、四半期ごとに景況感の聞き取り調査を行う。聞き取り方法は、直接面接もしくは電話にて行う。

調査期間は平成 29 年 1 月～平成 33 年 12 月までとし、四半期ごとに景況感をまとめ、年 2 回報告する。

対象事業者：

大子町にて事業を行っている小規模事業者

調査項目：

- ① 売上高、販売単価、粗利益、資金繰り、人材確保、景況感、風評被害について前年度同時期と比較した。
- ② 調査期間における設備投資の有無、および、今後の設備投資の予定を調査した。
- ③ 大子町で事業を行う上で、現在認識している課題・問題点を調査した。

調査属性

製造業（食品加工業を含む）	6社
建設関連業	6社
小売業（卸売業を含む）	9社
サービス業（飲食、観光含む）	10社

事業者の規模

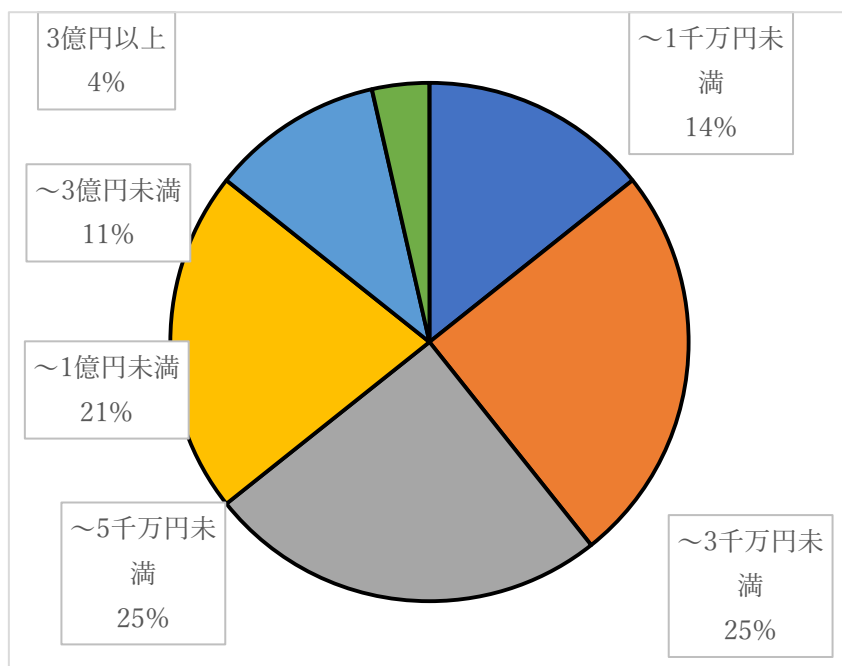


図1 売上規模による事業者の調査割合

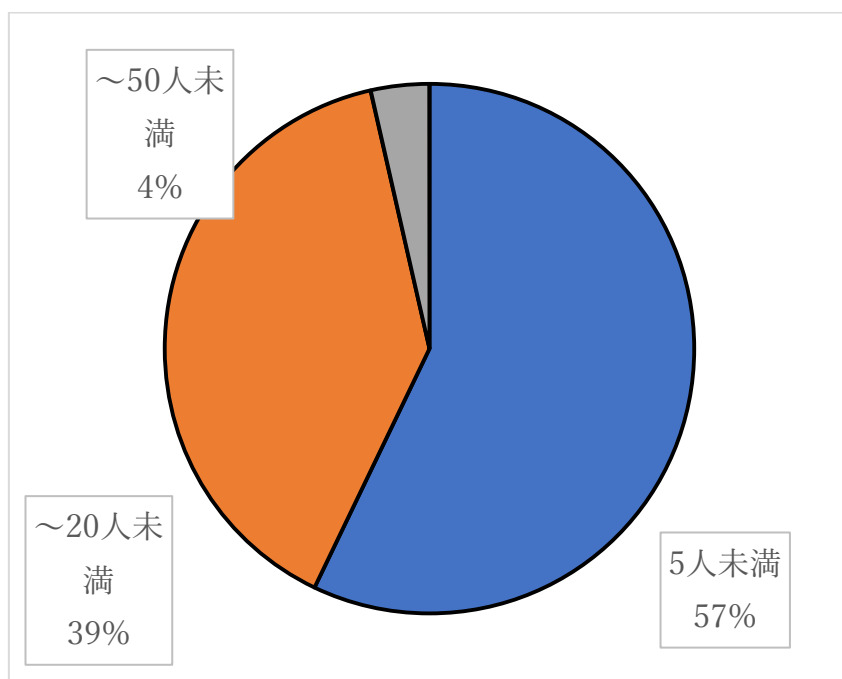


図2 従業員規模による事業者の割合

1. 景況感について

大子町では、令和元年に入ってから、産業全体に不景気懸念が強いようです。

昨年度まで好調であり底支えしていた建設業や製造業が低迷したため、産業全体でも大きく景況感が悪化しました。特に製造業の下落が激しいようです。次いでサービス業（飲食、観光を含む）です。

全体的な景況感の低下により、2章でも述べる設備投資に対する意気込みも下がってきたようです（後述）。

このような不況のなかですが一部回復しているのではないかとと思われる業種として、小売業が上げられます。この10年以上低迷していた小売業が不況を訴えていたなかで、大子町の小売業者は少しだけ和らいできているようです。まちづくりなどの施策などが効果を現してきている可能性もゼロではないと感じます。

例年4月～6月にかけてサービス業（飲食店、観光業含む）の景況感が高いのですが、今年度の景況感は今までに悪く悪いように見受けられます。来店客（観光客でしょうか）が少ないことも原因の一つかもしれませんが、人員不足による適切なサービスができない（販売ができない）状況になっているの可能性があります。

個人的な意見になりますが、最低賃金が上がったが値上げができていない（粗利がとれない）ために人員を囲い切れないのではないかと推測しています。平成30年11月ころから景気が後退し、令和元年4月からさらに後退したように感じます。

表1 令和元年4月～6月間のDI※1

	売上高	販売単価	粗利益	資金繰り	人材確保	景況感	風評被害
製造業 (食品加工含む)	▲ 66.7	▲ 16.7	▲ 66.7	0.0	▲ 16.7	▲ 50.0	16.7
建設関連業	16.7	▲ 16.7	0.0	0.0	▲ 16.7	▲ 33.3	0.0
小売業 (卸売業含む)	▲ 11.1	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 22.2	▲ 33.3	▲ 11.1
サービス業 (飲食、観光含む)	▲ 50.0	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 30.0	▲ 50.0	▲ 40.0	▲ 10.0
全業種計	▲ 29.0	▲ 25.8	▲ 29.0	▲ 12.9	▲ 29.0	▲ 38.7	▲ 3.2

※1 DI (Diffusion Index : 業況判断指数)

「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものを%ポイントで表した景気判断指数の一つです。プラスは良くなった。マイナスは悪くなった。と、とらえることができます。

大子町における、業種別、項目別のD Iの推移を以下に示します。

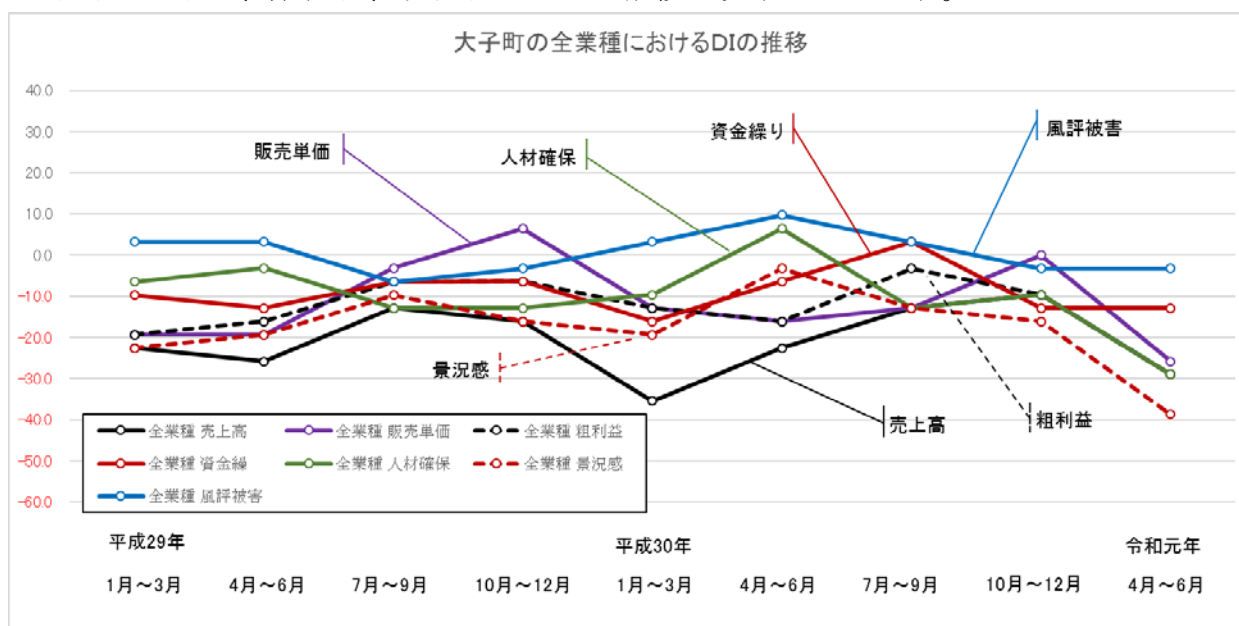


図1 大子町の全業種におけるD Iの推移

大子町では、3.11 の災害からの風評被害の影響がなくなったと感じる方がいなくなったようです（実際に風評被害の影響は続いています）。

今回の調査では、すべての指標が低下しました。特に、景況感に不安視する事業者が多いようです。特に、このグラフから、平成30年10月ころから景気が後退し、令和元年4月からさらに後退したように感じます。平成30年11月の米中貿易戦争、令和元年4月は年金後2千万円問題がありました。関係あるのかどうか不明です。

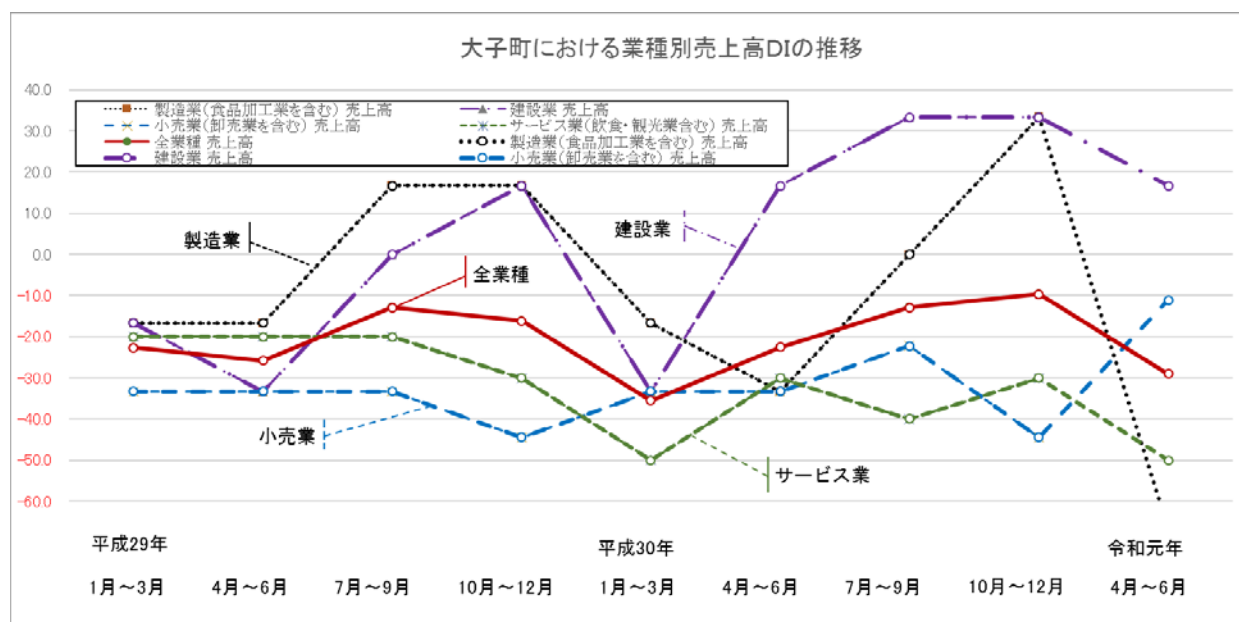


図2 大子町における業種別売上D Iの推移

令和元年から全体的に売上高が落ち込んでいます。特に製造業の落ち込みがひどいようです。小売業に関しては、悪いながらも売上回復の兆しがかすかに見えているようです。

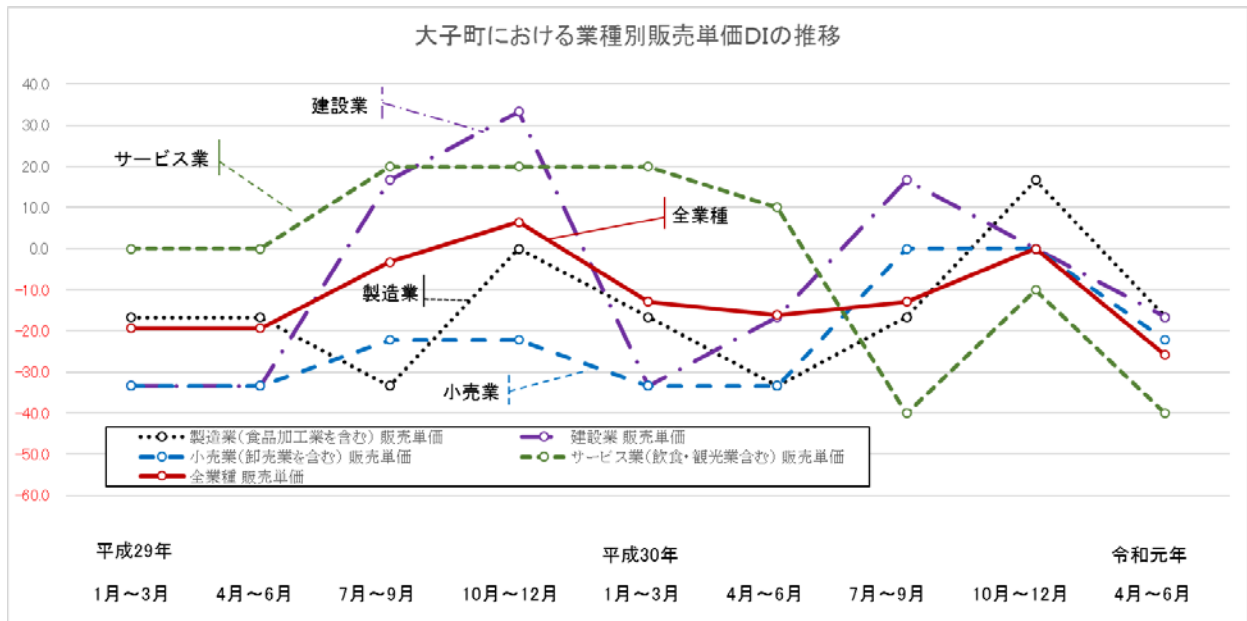


図3 大子町における業種別販売単価DIの推移

平成29年～30年にかけてすべての業種で販売単価の上昇がみられました。しかしながら令和元年になってからは、景気の低下と共に販売単価の下落が感じられます。

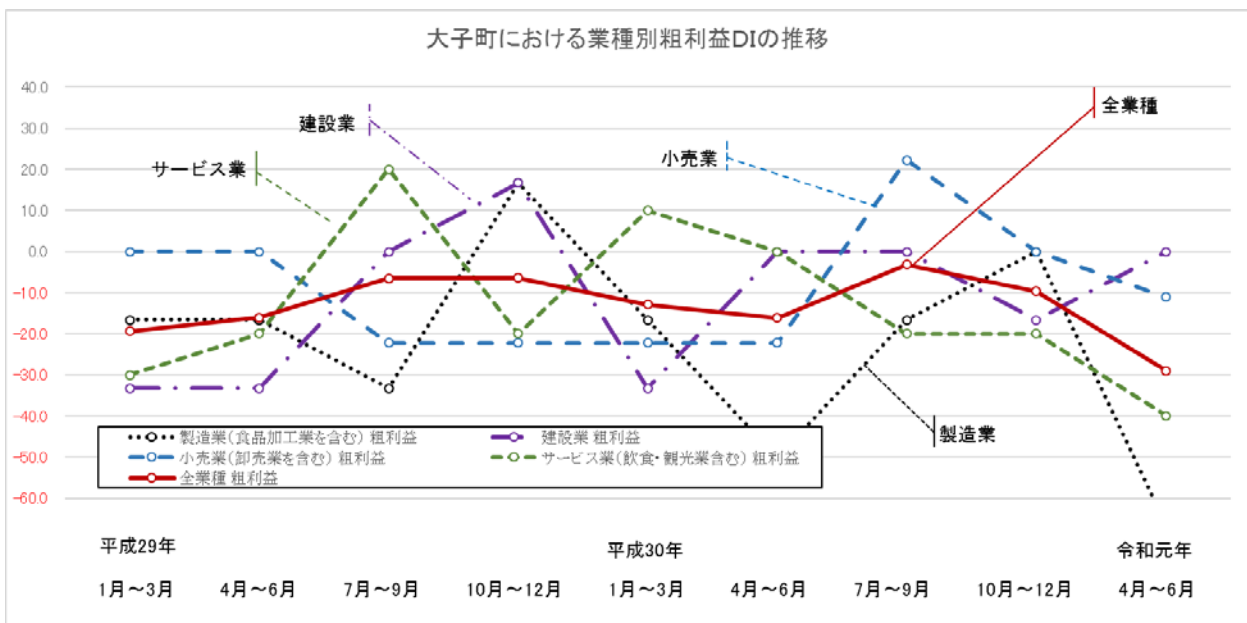


図4 大子町における業種別粗利益DIの推移

全体的に利益が低下している傾向です。ただし建設業に関しては、利益が上がったように感じる方が多いです。これは、業種の特性であり、仕事が終わった後、遅れて現金が入った時の仕事量が減少した時におこる錯覚（仕事量が減ったので現金の出が減り、その時に前の売上現金が入った）である可能性があります。

小売業者は、売上の向上をしめしていますが、単価が下がり、粗利益が下がったと感じています。町中全体での施策に問題・課題があるのではないのでしょうか。集客のための過剰な値引きを行っている可能性があります。

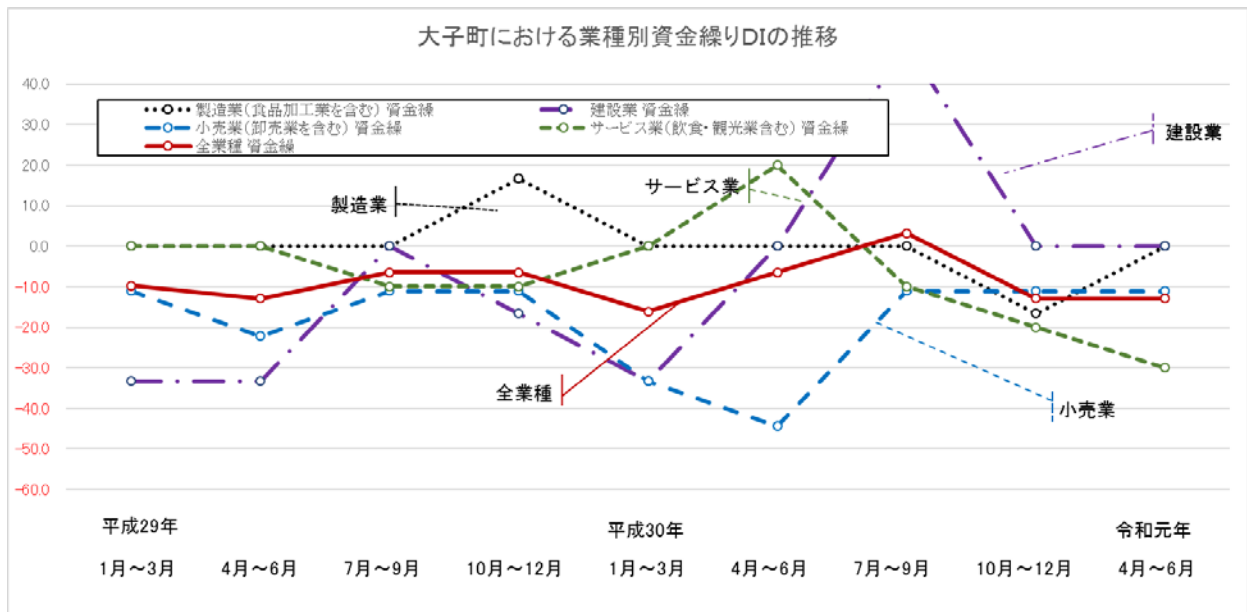


図5 大子町における業種別資金繰りDIの推移

資金繰りに関しては、一時期、建設業が乱高下を繰り返しましたが、業種を問わず落ち着いてきたという傾向になりました。

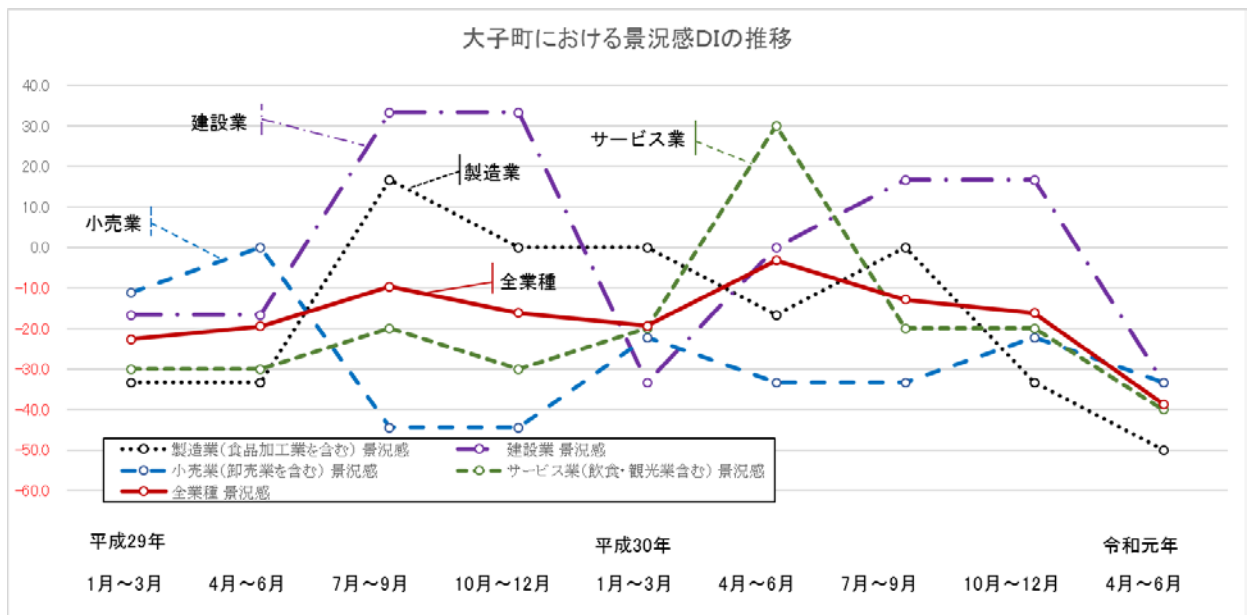


図6 大子町における景況感DIの推移

全体的に、平成29年は好調でしたが、平成30年の後半から低迷が続いています。特に建設業と製造業の市場を見る目が厳しいようです。

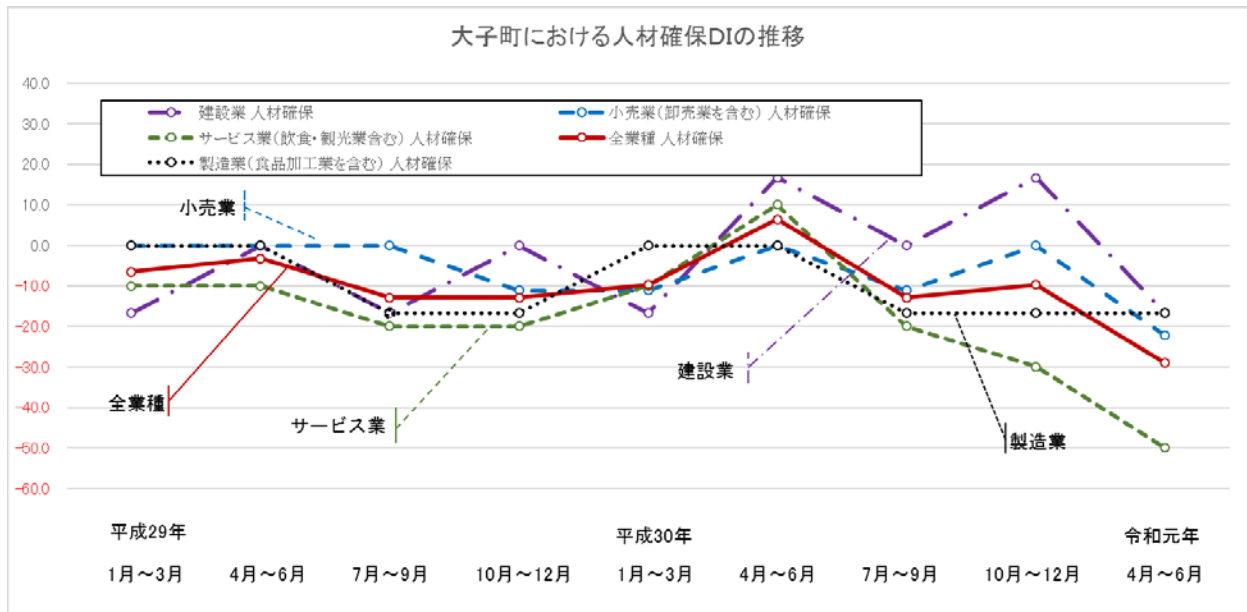


図7 大子町における人材確保DIの推移

平成30年まで、人材の動きがサービス業・小売業から建設業・製造業に動いたように感じられました。令和元年になってからは、製造業をのぞく多くの業種で人手不足を訴えています。小規模の製造業者は家内工業的な面があるために、人で不足をあまり意識しないという可能性もあります。

特に深刻なのは、サービス業（飲食業観光業を含む）のように、人的は労働により売上向上は図る業種です。大子町の場合、サービス業というとシステム開発などよりも飲食業や観光業と言った経営構造的に粗利益の少ない業種であるため、低賃金により人が集められないという可能性があります。

2. 設備投資に関して

令和元年に入り設備投資の意欲が著しく減少しました。今後の経済の先行き不透明感が設備投資意欲を阻害している可能性があります。

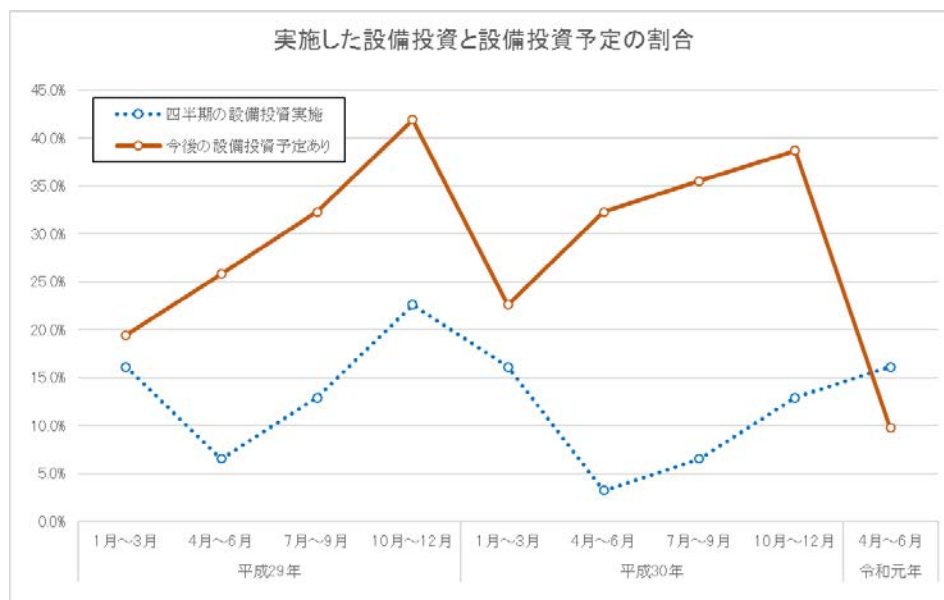


図8 今後設備投資を行う予定のある事業者と、各四半期に設備投資を実施した割合

3. 小規模事業者の課題意識について

調査開始当初と1年後、直近の課題意識の違いを比較してみました。

概ね、昨年度と同様の傾向でした。「大手企業やライバル企業との競争の激化」を指摘するよりも「需要の停滞・売上の伸び悩み」に問題があるようです。つまり、他社との競争よりも市場の縮小が問題であり、今後それを解決する手法を見つけ出す必要に迫られています。

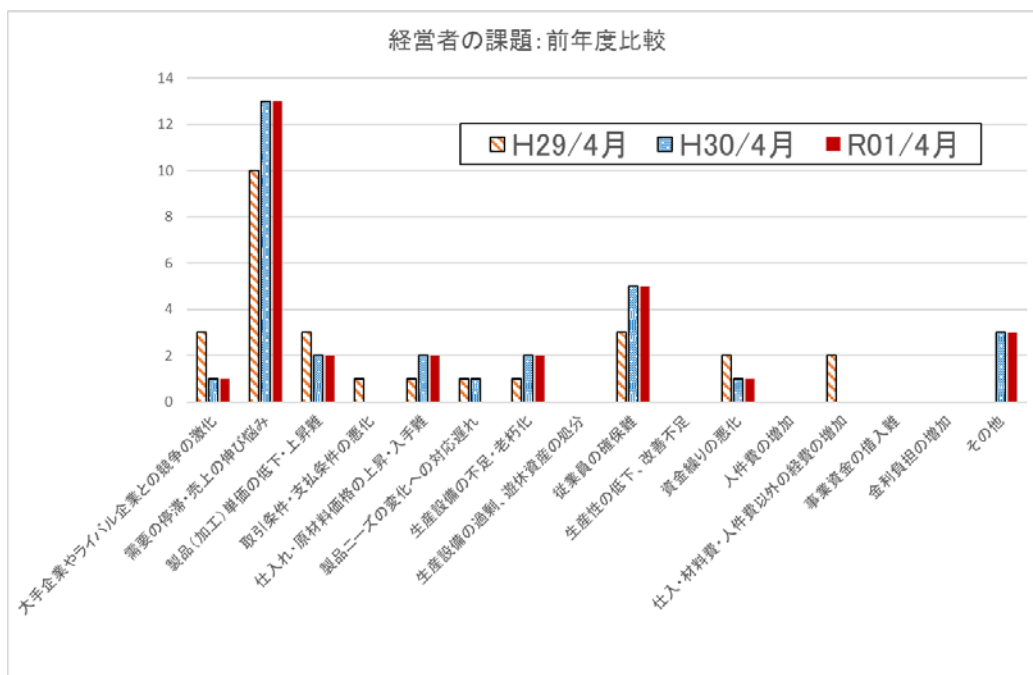


図9 大子町における小規模事業者の課題意識